

学校評価アンケートにご協力ありがとうございました

【アンケート実施数】

保護者（児童数） 回収率 61%

（学年別：1年生76% 2年生54% 3年生68% 4年生49% 5年生56% 6年生65%）

実施児童数（2～6年生） 300名

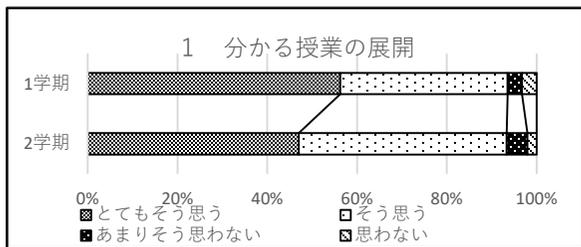
深めよう絆 育てようふるさと・我が母校 ～学校評価のまとめ(最終報告)～

ご多用の中、学校評価アンケートにご協力いただきありがとうございました。2年生以上の児童からのアンケート及び保護者の皆様からのアンケート結果をお知らせします。学校運営協議会(CS実行委員会)からのご意見を含めた詳しい内容(最終報告)については、近日中に、学校ホームページに掲載する予定ですのでそちらもご覧ください。

【児童アンケート】

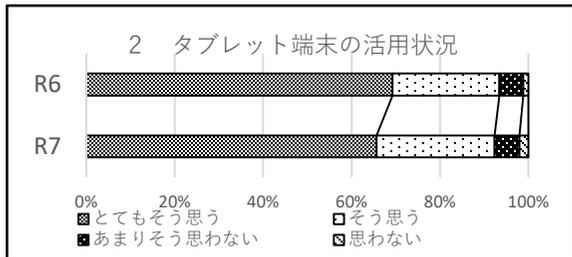
1 分かる授業の展開

9割以上の児童が「とてもそう思う」「そう思う」と肯定的に回答しており、授業改善の取組が成果を上げていると考えられる。ただ、どの学年も一定の割合で学習に苦手意識のある児童がおり、次の学年に向けて、苦手意識を克服できるよう個別の支援を継続していく。



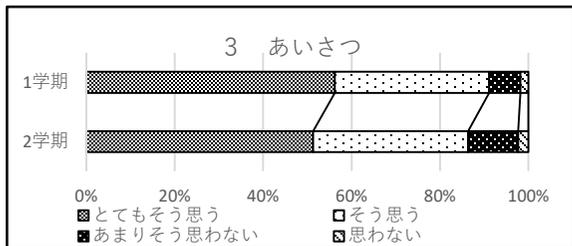
2 タブレット端末の活用状況

9割以上の児童が「とてもそう思う」「そう思う」と回答しているが、昨年よりも肯定的な回答の割合が減少している。一人1台のタブレット端末をもっと使いたいという児童の意欲の表れでもあると思うので、様々な学習活動でタブレット端末のより一層の活用を図っていく。



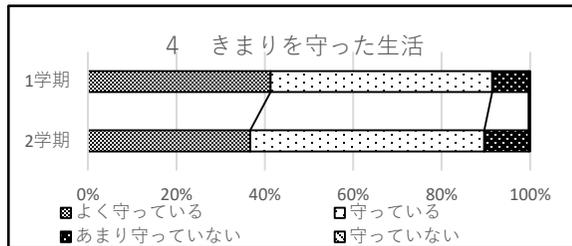
3 あいさつ

どの学年でも8割以上の児童が肯定的な意見であったが、1学期と比べ、肯定的な回答の割合が減った。高学年の肯定的な回答の割合が高い傾向が見られるので、高学年が良い手本となり、学校全体でも自分からあいさつをする児童を増やしていきたい。



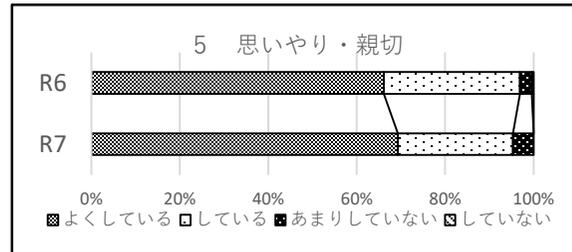
4 きまりを守った生活

1学期よりも肯定的な割合が減少している。けれども9割程度の児童が「よく守っている」「守っている」と回答しており、多くの児童が「きまりを守る」「もしくは守ろうとする」意識をもつことができている。安全指導や日頃の生活指導を丁寧に行うとともに、児童の生活面の課題を教員間で共有し、引き続き組織的な指導で対応していく。



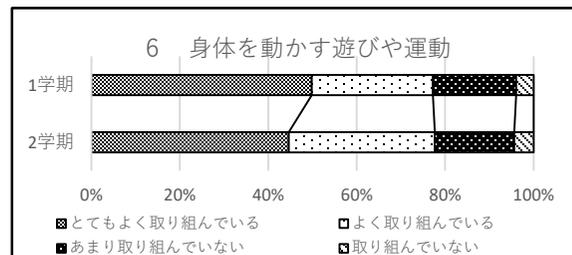
5 思いやり・親切

9割以上の児童が「よくしている」「している」と回答し、昨年よりも肯定的な割合が増加している。友達のことを大切に思い、優しくしようとする意欲が育ってきており、「特別の教科道徳」や異学年交流・人権標語等の取組の成果が表れている。引き続き学校の教育活動全体で重点的に思いやりの心を育み、人と助け合うよさを実感する指導を行っていく。



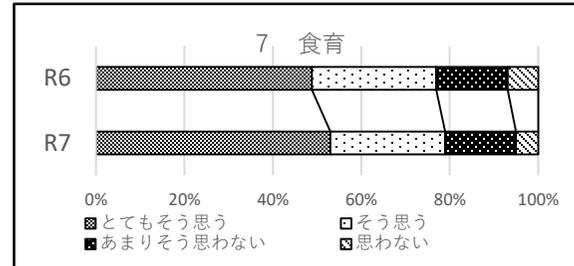
6 身体を動かす遊びや運動

1学期と比較して、「とてもよく取り組んでいる」と回答した割合が減少している。2学期末、急激に寒さが増し、外遊びをする児童が減少している。また高学年になるほど肯定的な回答が減少している。学校全体で持久走や長縄に取り組む機会を設けたり、クラス遊びの工夫を共有したりすることで、どの学年の児童も運動する楽しさを十分に味わえるよう指導を工夫していく。



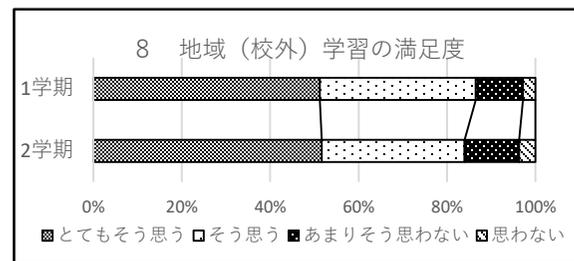
7 食育

昨年と比べ肯定的な回答が増加しており、約8割の児童が、「給食を好きに食べずによく食べている」と回答している。給食の時間に保健給食委員会が献立や栄養について伝える全校放送を今年度から始めた成果だと考えられる。けれども2割以上の児童が否定的な回答であることから、学級活動や家庭科学習の充実、日々の給食指導を通して食育の充実を図り、栄養バランスの大切さに気付かせていく。



8 地域（校外）学習の満足度

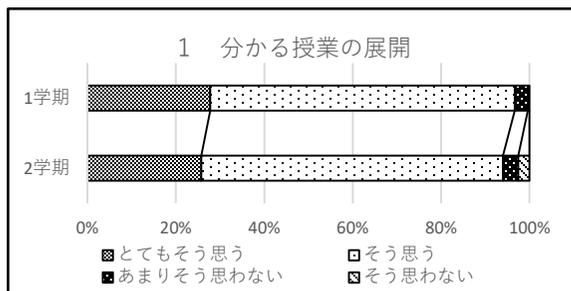
1学期と比較して、肯定的な回答の割合が減少していて、学年が上がっていくと肯定的な回答が減少する傾向が見られた。高学年でも、実際に見学したり、地域の方をゲストティーチャーに招いて学習したりする活動を充実させる必要がある。国分寺学を軸に、年間を通して地域の方々に関わり、どの学年でも地域への誇りと愛着を育むような学習を行えるよう体制を整えていく。



【保護者アンケート】

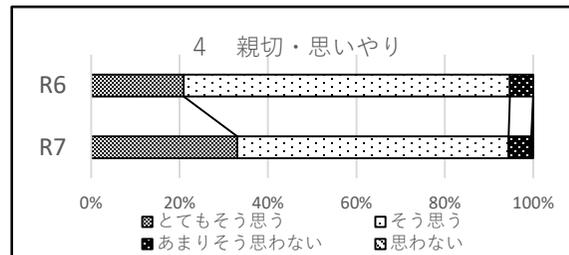
1 分かる授業の展開

1学期と比較して、肯定的な回答の割合が減少している。児童が「分かった」「できた」と感じ、保護者がそれを実感できるような授業を実践できるよう、授業改善プランを基に授業改善を進めていく。また、保護者会や学校公開・学校ブログ等を通して、授業中の様子を積極的に発信していく。



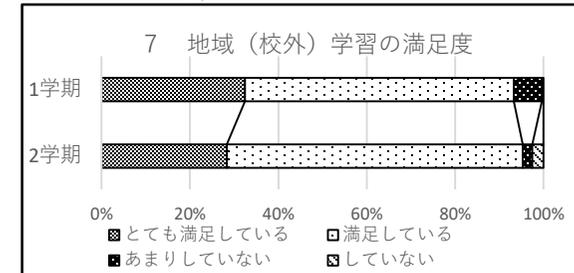
4 親切・思いやり

9割以上の保護者が「とてもそう思う」「そう思う」と肯定的に回答している。昨年と比較して「とてもそう思う」の割合が増加した。「優しい気持ちや親切な態度」は学校と家庭・地域が両輪となって育てていく必要がある。学校では「特別の教科道徳」や教育活動全体を通して、集団生活の中で人を思いやり互いに助け合う気持ちと態度を育てていく。



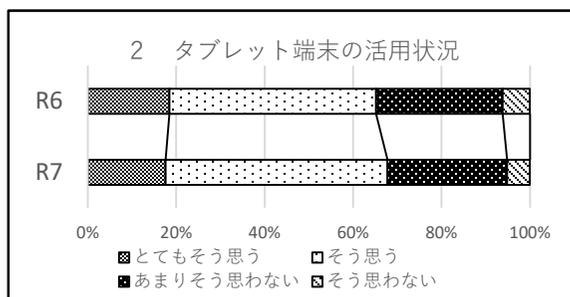
7 地域（校外）学習の満足度

1学期と比較して、肯定的な意見が増加した。今年度、全面実施の国分寺学をもとに、年間を通して、地域の方と関わりながら学習を進めることができた。1年生から6年生まで、全ての学年で実際に見学したり、地域の方をゲストティーチャーに招いて学習したりする活動を充実させ、地域への愛着を深められるようにしていきたい。地域の方との連携を深め、さらなる学習内容の精選・充実を図っていく。



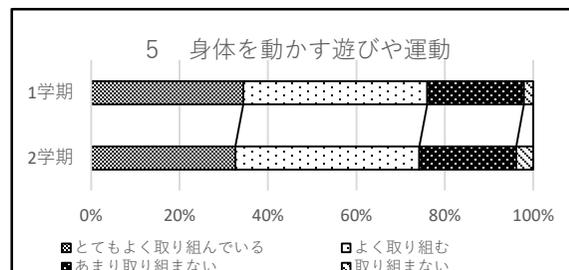
2 タブレット端末の活用状況

昨年の最終評価と比較して、肯定的な回答の割合が少し増加している。学年が上がると、肯定的な回答が増加する傾向が見られる。低学年ほど肯定的な回答の割合が低いのは、字を書く指導の大切さを重視している傾向の表れでもある。発達段階に応じて各学年で系統的に指導していき、積極的に活用していく。今後も学校公開でタブレットを活用した授業を公開したり、児童がタブレットで作成した作品を掲示したりすることで、家庭に分かりやすく発信していく。



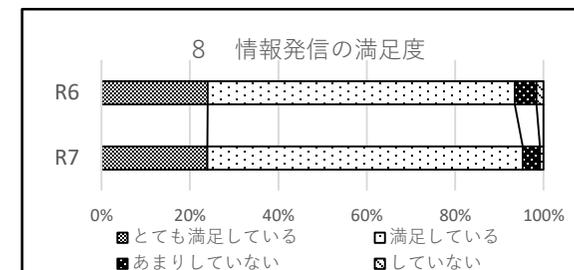
5 身体を動かす遊びや運動

1学期と比較して、肯定的な回答の割合が減少している。また、児童のアンケートと同様に、高学年になるにつれて否定的な回答の割合が増加する傾向がある。保健の学習で運動の大切さを指導したり、学校の教育活動だけでなく放課後の過ごし方についても身体を動かせるような取組を学校から積極的に発信したりしていく必要がある。



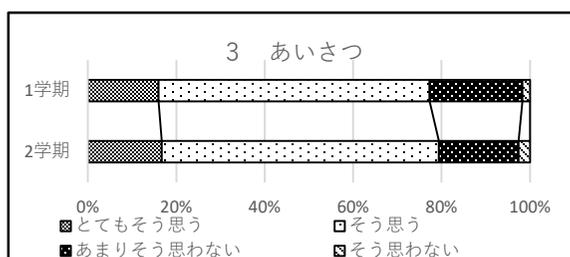
8 情報発信の満足度

昨年と比較して、肯定的な回答が増加している。学校だよりや学校ブログのより一層の充実とともに、スクールメールやまなびポケットの活用をして、引き続き、開かれた学校を旨とし情報発信していく。



3 あいさつ

1学期と比較して、肯定的な意見は少し増加している。あいさつはするが、自分からすすんであいさつはできていないという児童がどの学年にもいる。あいさつの習慣を定着させるように、相手意識をもたせたあいさつの指導を繰り返し行っていく。また、地域や保護者の方へすすんであいさつする姿勢を教職員が率先して手本を示す。



6 栄養バランスに気を付けた食事や健康に対する意欲

7割以上の保護者が肯定的な回答をしているが、昨年より肯定的な回答が減少している。学級活動や家庭科の授業、日々の給食指導を通して、栄養士と学級担任が連携しながら栄養バランスの大切さを指導していくとともに、その取組を積極的に発信していく。

